（様式１）

# 令和８年度　学力向上指導改善プラン

| | |
|---|---|
| 学校教育目標 | 夢に向かって共に歩むすずかけっ子の育成 |
| 目指す子どもの姿 | 笑顔はじけるすずかけっ子 |
| 変容を目指す資質・能力 | a知識及び技能　b思考力、判断力、表現力等　c学びに向かう力、人間性等　d情報活用能力　e課題解決能力　f学び続ける姿勢　gコミュニケーション能力 |

三田市立すずかけ台小学校
学校長　荒井　隆一
研究主体【学力向上委員会を設置して実施する】

| 前年度 | | | 継続性 | 4月 | | | 2～3月 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 年度末評価 | | |
| 学力向上に向けた重点的な目標 | 年度末評価（前年度の成果と次年度に向けた課題等） | 評価 | | 学力向上に向けた重点的な目標（変容を目指す資質・能力） | 成果となる目標（指標となる数値等） | 具体的な行動目標（成果目標達成のための具体的な手立て等） | 教員点検 | （今年度の成果と来年度に向けた課題等） | 評価 |
| 1.授業スタイルの確立<br>〇「すずかけ学習スタイル」に沿って<br>・めあての共有<br>・一人学び<br>・交流<br>・ふり返り<br>の学び方の流れを共通理解し、実践する。（b・d・g） | 〇めあて→ふり返り、一人学び→全体交流を意識した授業スタイルが定着している。<br>〇交流を通して自分の考えの広がりや深まりを叙述することがある程度できるようになっている。<br>◆チャレンジタイムを活用することで一人学びの段階で、自分の考えを持つのが難しい児童への手立てを講じていきたい。また、効果的な手立ては共有し、指導の充実を図っていきたい。 | A | 新規 | 課題解決に必要な「複数」の情報を「関連付ける」力の育成（b・d・g） | ①国語、算数の「思考・判断・表現」に関する項目の平均正答率が全国平均を上回る。<br>②質問調査で「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の肯定評価が全国平均を＋3ポイント以上<br>③質問調査で「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の肯定評価が全国平均を＋3ポイント以上 | ・算数では、「言葉、図、式」を関連付けて説明する活動を授業に位置付ける<br>・各教科等で、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」場面を設定する<br>・各教科で、情報を抜き出し、組み立て、整理し、目的に応じて情報を効果的に活用し、自己の考えを筋道立てて述べる学習の場を設定する | | | |
| 2.思考力・判断力・表現力を育成する。<br>〇研究推進による主体的な学びづくり<br>・年間を見通した学習計画・指導案づくり<br>・実践事例の交流<br>〇基本的な学び方の定着<br>・ノート指導（タブレット活用も含む）<br>〇考える力の育成<br>・学習内容を日常生活とつなげる<br>・授業の終末の工夫（b・c・d・g） | **〇年間を通して、道徳科の研究において指導案だけでなく分析シートを作成しながら研究を行ってきた。その成果として、職員の大半が分析シートの使用法を理解できたとともに子ども達の思考力の高まりを感じている。さらに、分析シートを用いることで、中心発問を精選したり、内容項目を意識したりしながら効果的な授業づくりに取り組めた。**<br>〇校内研究会と学団研究会での成果と課題をまとめ、全職員で周知することによって実践の積み重ねができた。<br>〇ノート指導、タブレット活用を含め、考える力を育成するために段階的な指導をすることで基本的な学び方が定着してきた。<br>◆道徳科のふりかえりの書き方や、交流の仕方ついてはまだ系統立てた目標が作成できておらず、来年度の課題となる。<br>◆自ら学びに向かったり、学び方を考え直したりする主体性が課題として残るので、来年度焦点化して指導していきたい。 | A | | 主体性を育むための探究の過程を大切にした授業改善（b・g） | ①質問調査で「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定評価が全国平均を＋3ポイント以上<br>②質問調査で「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定評価が全国平均を＋3ポイント以上 | ・学習者自身が「なぜ？」と考えられるような問いを学習課題に設定する<br>・学習の成果をプレゼンテーションやレポートにまとめたり、グループで発表したりする活動を取り入れる<br>・学習者の意欲が持続するために異学年交流などの互いに認め合う場面を設定する | | | |
| 3.ICT機器の活用による主体的な学びづくりをすすめる。<br><br>〇授業の中での効果的に活用する。<br>〇実践事例を交流する。（a・b・d） | 〇毎日授業等でICT機器の活用を教員が意識したことで、児童のICT機器の活用が日常化してきている。<br>〇各学年に応じたアプリの使用、タイピングの練習等を通して、少しずつ児童がICT活用スキルを身につけてきているように感じる。　〇様々な教科でICT機器を活用することで、表現の幅が広がってきている。<br>◆ICT機器を活用することで、資料作りのスキルは向上している。しかし、自分の発表に説得力を持たせたり、相手意識を持つまでには至っていない。<br>**◆授業でのICT機器の活用の実践交流があまりできなかったので、今後増やしていきたい。** | B | | ICT機器の活用による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（c・d・e・f） | ・ICT機器を活用することについての質問調査で①～⑦のうち、４項目で肯定評価が70%を上回る<br>①自分のペースで理解しながら学習を進めることができる<br>②分からないことがあった時に、すぐ調べることができる<br>③楽しみながら学習を進めることができる<br>④画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる<br>⑤自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる<br>⑥友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる<br>⑦友達と協力しながら学習を進めることができる | ・グループワークやプレゼンテーションなど、様々な学習活動を取り入れることで、主体的・対話的で深い学びを促す<br>・ICT機器を活用して、児童同士の意見交換や共同作業（共同編集）を行うことで、他者の意見や視点を尊重しながら考えを深める<br>・ICT機器を活用して情報を整理する活動や共同編集する機会を設ける | | | |
| 4.自主学習と読書活動を推進する。<br>〇家庭での自主学習の習慣を定着させる。<br>〇学校司書・図書ボランティアや図書委員会と連携し、読書の機会を増やす。（c・e・f） | 〇毎朝の読書タイム、23日の「家庭読書の日」の設定により、子どもたちの読書をする意識は上がった。<br>〇学校司書・図書ボランティアさんとの連携により、毎月の図書館クイズ・読み聞かせが充実している。<br>〇自主学習の交流を通して、友達から影響を受け、発展的、探究的な学習に取り組めた。<br>◆学年に応じた自主学習への主体的な姿勢の定着は課題が残った。<br>◆職員間で自主学習の研修を行う実践交流会は行えなかった。<br>◆家庭での読書の時間は確保できていないことが課題である。 | B | | 家庭学習の充実を図る（c・f） | ①保護者アンケートで、「子どもは家庭で宿題以外の学習を進めている」の項目で80%以上が肯定評価となるようにする | ・三田市発行の「ひとり学びへの手引き」をもとに、「すずかけ台小学校家庭学習の手引き」を低・中・高学年向けに作成する<br>・ミライシードを活用した家庭学習に取組み、日々の学習の振り返りを児童、保護者、担任間で共有しながら進める | | | |
| 5.個別指導の充実を図る。<br>〇朝学習・補充学習の充実と、つまずきが見られる児童への個別指導を推進する。<br>〇基礎的な内容について日常的な指導を工夫する。（a・b・d） | **〇「がんばりタイム」をはじめとした個に応じて基礎学力をつけるための取り組みを実施できた。毎時間初めに計算検定を行ってきた。**<br>**〇グループ活動を取り入れ、子ども達が互いに学び合う環境を整えることで、個々の課題に対しての知識定着の推進ができた。**<br>〇5、6年の学習に予習、復習を充実させたことで、授業のつまづきを減らすことができた。 | B | | 学校園所の連携を通して学びの円滑な接続を目指す（a・e・f） | ①学校園所連携を学期に1回以上（年3回以上）開催する<br>②全国学力学習状況調査の各教科における平均正答率を前年度以上にする | ・学校園所連携では、全体会・分科会での意見交流を実施する予定である<br>・授業見学を実施し、各学校園所の課題等を共有する<br>・けやき台中校区で学力向上部会を設け、学力テストの分析結果を交流し、中学校区の成果と課題を共有し、授業改善を行う | | | |
| 6.学校園所の連携を通して学びの円滑な接続を目指す。（a・e・f） | 〇学校園所連携では、全体会・分科会での意見交流を年3回実施した。また、授業見学を実施し、各学校園所の課題等を共有することができた。<br>〇けやき台中校区で学力向上部会を設け、学力テストの分析結果を交流し、中学校区の成果と課題を共有し、授業改善を行った。<br>〇6年生を対象として中学生が自分たちの学校生活や授業を紹介する出前授業を行ってくれた。中学校生活の見通しを持つことができた。 | A | | | | | | | |

〇「教員点検」は教員対象に実施した自己点検調査結果
（1～5の5段階評価）の平均値
〇「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
A・・・十分に達成　B・・・おおよそ達成
C・・・達成が不十分　D・・・ほとんど達成できず